

## 第 43 回「山形県内企業の景気動向調査」確報

(平成 27 年 5～6 月調査)

～景況感は 4 期ぶりに改善したものの、先行きは不透明～

### 【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲5.5(前回調査比 5.6 ポイント上昇)と **4 期ぶりに改善**した。「各種DI値(前年同期比)」をみると、「人員・人手」が悪化したものの、「売上高」「営業利益」「資金繰り」の 3 項目で改善となった。中でも「営業利益」が▲4.5(前回調査比 7.5 ポイント上昇)と、DI 値はマイナスながら改善幅が大きい。
- **業種別**に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、**建設業**が▲23.3(前回調査比 9.3 ポイント下落)と **悪化**したものの、製造業が 5.2(前回調査比 8.9 ポイント上昇)、卸・小売業が▲12.8(前回調査比 11.8 ポイント上昇)、サービス業が 6.2(前回調査比 10.2 ポイント上昇)と、**3 業種で大幅に改善**し、製造業とサービス業ではいずれも、前回調査でマイナスであったDI 値が再びプラスに転じた。
- **地域別**に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、村山南部が 0.0(前回調査比 11.2 ポイント上昇)、村山北部が▲20.0(前回調査比 4.7 ポイント下落)、最上が▲19.1(前回調査比 19.1 ポイント下落)、置賜が▲4.9(前回調査比 13.1 ポイント上昇)、庄内田川が 17.1(前回調査比 28.1 ポイント上昇)、庄内飽海が▲18.1(前回調査比 9.5 ポイント下落)と、村山南部、置賜、庄内田川で改善する一方、村山北部、最上、庄内飽海で悪化した。
- **先行き見通し**は「自社の業況DI値」が▲15.1(今回調査比 9.6 ポイント下落)と **再び悪化**の見込みとなり、先行き不透明な状況がうかがわれる。

### 【特別調査】

- **夏季ボーナス**について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 50.9%(前年比 1.6 ポイント低下)と、前年に比べて若干低下した。
- **春季以降の賃金改定動向**について尋ねたところ、賃上げを実施する企業の割合(「ベア・定昇とも実施」+「ベアのみ実施」+「定昇のみ実施」)は、全業種で 46.6%(前年比 5.8 ポイント上昇)と前年に比べて上昇した。

平成 27 年 6 月

株式会社 フィデア総合研究所

## 目次

I. 県内企業の業況	1
1. 概況	1
2. 業種別の動向	2
(1) 業種別の概況	2
(2) 業種別 D I 値の動向	3
① 建設業	3
② 製造業	5
③ 卸・小売業	7
④ サービス業	9
3. 地域別の動向	11
(1) 地域別の概況	11
(2) 地域別 D I 値の動向	12
① 村山南部	12
② 村山北部	13
③ 最上	14
④ 置賜	15
⑤ 庄内田川	16
⑥ 庄内飽海	17
II. 景気の天気予報図	18
III. 特別調査	19
1. 夏季ボーナスについて	19
(1) 支給予定動向	19
(2) 支給予定額	21
2. 春季以降の賃金改定動向について	23
<参考資料 I : 地域別・業種別回答率>	24
<参考資料 II : 調査の概要>	24

## I. 県内企業の業況

### 1. 概況

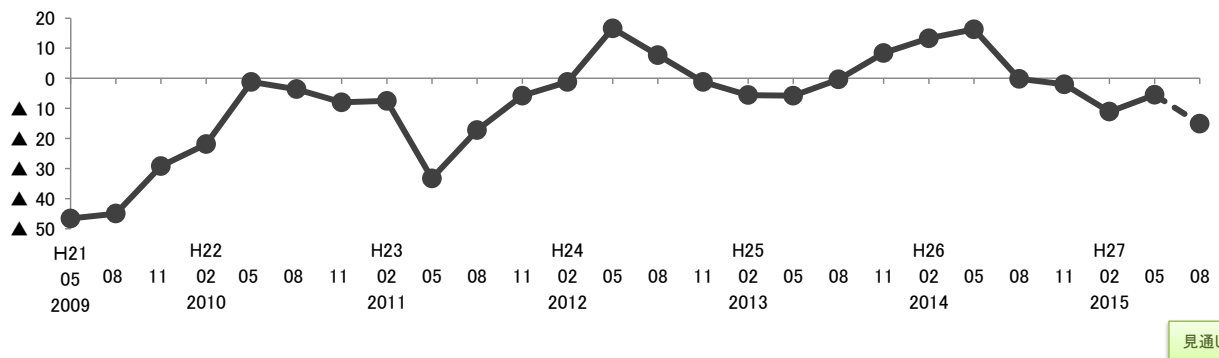
#### 現況判断：景況感は4期ぶりに改善

県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲5.5（前回調査比5.6ポイント上昇）と4期ぶりに改善した。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「人員・人手」が悪化したものの、「売上高」「営業利益」「資金繰り」の3項目で改善となった。中でも「営業利益」が▲4.5（前回調査比7.5ポイント上昇）と、DI値はマイナスながら改善幅が大きい。

#### 来期の見通し：再び悪化が見込まれる

先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲15.1（今回調査比9.6ポイント下落）と再び悪化の見込みとなり、先行き不透明な状況がうかがわれる。

図表 1 全業種「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



見通し

前年同期比の自社業況DI値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
H 26. 05 (n=461)	16.3	(3.0)	▲ 3.5	19.1	8.5	18.2	▲ 5.0
H 26. 08 (n=454)	▲ 0.2	(▲ 16.5)	▲ 13.7	0.4	▲ 5.7	23.1	▲ 7.3
H 26. 11 (n=442)	▲ 2.0	(▲ 1.8)	▲ 1.8	0.6	▲ 5.9	25.3	▲ 4.3
H 27. 02 (n=448)	▲ 11.1	(▲ 9.1)	▲ 14.5	▲ 11.0	▲ 12.0	17.0	▲ 9.0
H 27. 05 (n=442)	▲ 5.5	(5.6)	▲ 15.4	▲ 7.2	▲ 4.5	13.8	▲ 7.1
前回調査比	-	-	-	(3.8)	(7.5)	(▲ 3.2)	(1.9)
先行き見通し	▲ 15.1	-	-	▲ 15.2	▲ 17.0	14.9	▲ 19.0
今回調査比	(▲ 9.6)	-	-	(▲ 8.0)	(▲ 12.5)	(1.1)	(▲ 11.9)

※「売上高」DI値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

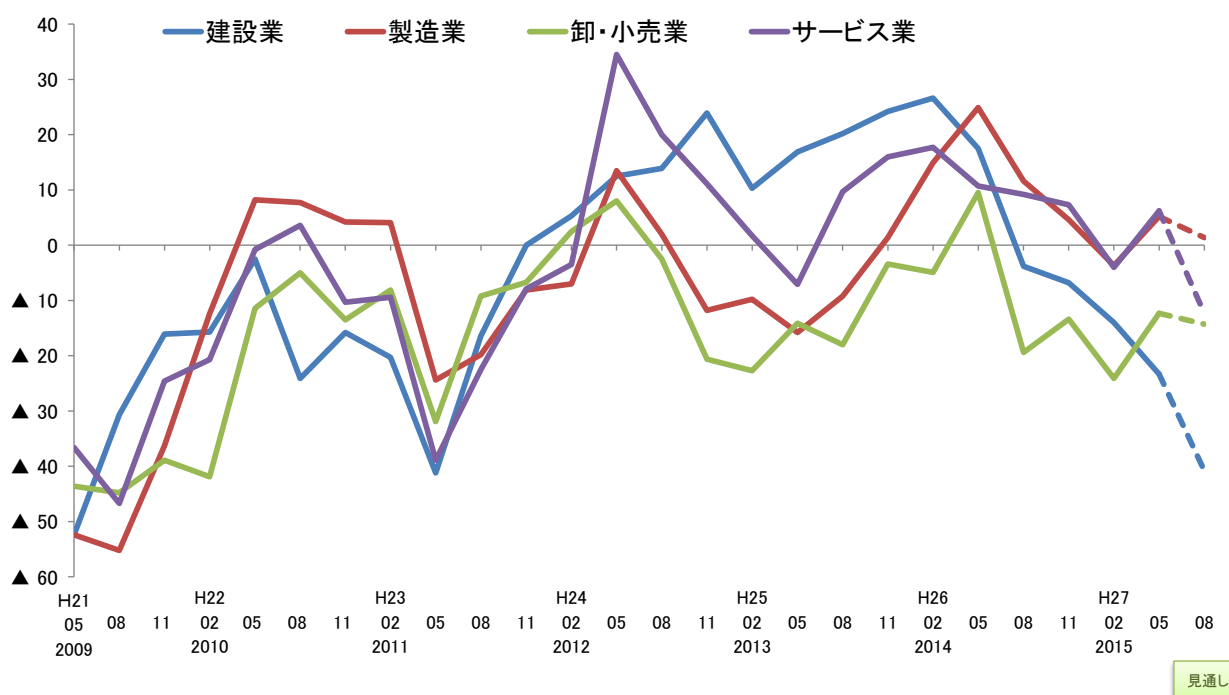
## 2. 業種別の動向

### (1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲23.3（前回調査比 9.3 ポイント下落）と悪化したものの、製造業が 5.2（前回調査比 8.9 ポイント上昇）、卸・小売業が▲12.3（前回調査比 11.8 ポイント上昇）、サービス業が 6.2（前回調査比 10.2 ポイント上昇）と、3 業種で大幅に改善し、製造業とサービス業ではいずれも、前回調査でマイナスであった D I 値が再びプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、すべての業種で悪化が見込まれている。

図表 2 業種別「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26.05 (n=461)	16.3	17.5	24.9	9.5	10.7
H 26.08 (n=454)	▲ 0.2	▲ 3.8	11.6	▲ 19.4	9.2
H 26.11 (n=442)	▲ 2.0	▲ 6.8	4.6	▲ 13.4	7.3
H 27.02 (n=448)	▲ 11.1	▲ 14.0	▲ 3.7	▲ 24.1	▲ 4.0
<b>H 27.05 (n=442)</b>	<b>▲ 5.5</b>	<b>▲ 23.3</b>	<b>5.2</b>	<b>▲ 12.3</b>	<b>6.2</b>
前回調査比	(5.6)	(▲ 9.3)	(8.9)	(11.8)	(10.2)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 15.1</b>	<b>▲ 40.8</b>	<b>1.4</b>	<b>▲ 14.3</b>	<b>▲ 12.3</b>
今回調査比	(▲ 9.6)	(▲ 17.5)	(▲ 3.8)	(▲ 2.0)	(▲ 18.5)

## (2) 業種別 D I 値の動向

### ① 建設業

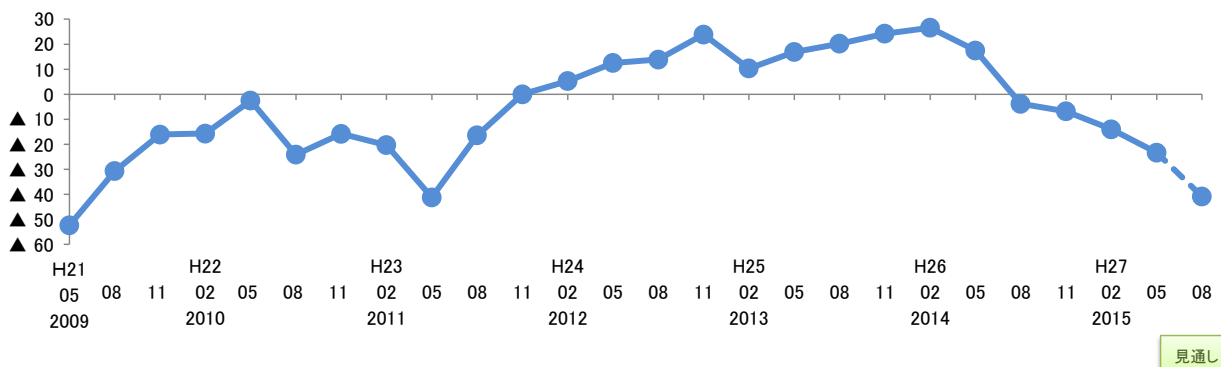
#### 現況判断：5 期連続で悪化

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲23.3（前回調査比 9.3 ポイント下落）と 5 期連続で悪化となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「資金繰り」が若干改善したものの、「完成工事高」「営業利益」「手持工事高」「人員・人手」が悪化となっており、中でも「完成工事高」の悪化幅が大きい。山形県内の公共工事の減少傾向が考えられ、民間の設備投資も少ない状況がうかがわれる。

#### 来期の見通し：大幅悪化が見込まれる

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲40.8（今回調査比 17.5 ポイント下落）とさらに大幅な悪化の見込みとなっている。

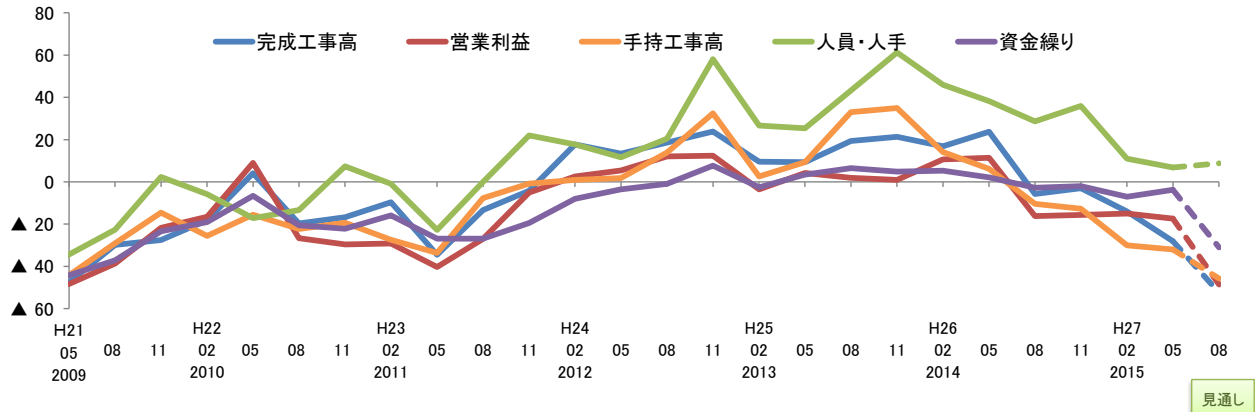
図表 3 建設業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

建設業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測	今回調査比					
H 26.05 (n=97)	17.5	(▲ 9.1)	▲ 12.4	23.7	11.4	6.2	38.2	2.1
H 26.08 (n=105)	▲ 3.8	(▲ 21.3)	▲ 15.5	▲ 5.7	▲ 16.2	▲ 10.4	28.6	▲ 2.8
H 26.11 (n=103)	▲ 6.8	(▲ 3.0)	0.0	▲ 3.0	▲ 15.6	▲ 12.7	35.9	▲ 2.0
H 27.02 (n=100)	▲ 14.0	(▲ 7.2)	▲ 24.2	▲ 14.0	▲ 15.0	▲ 30.0	11.0	▲ 7.0
<b>H 27.05 (n=103)</b>	<b>▲ 23.3</b>	<b>(▲ 9.3)</b>	<b>▲ 27.0</b>	<b>▲ 28.1</b>	<b>▲ 17.4</b>	<b>▲ 32.0</b>	<b>6.8</b>	<b>▲ 3.8</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 14.1)	(▲ 2.4)	(▲ 2.0)	(▲ 4.2)	(3.2)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 40.8</b>	-	-	<b>▲ 52.4</b>	<b>▲ 48.6</b>	<b>▲ 45.7</b>	<b>8.8</b>	<b>▲ 31.0</b>
今回調査比	(▲ 17.5)	-	-	(▲ 24.3)	(▲ 31.2)	(▲ 13.7)	(2.0)	(▲ 27.2)

図表 4 建設業「各種DI値（前年同期比）」の推移



Q. 今期の業況について

業界の声

- 今期、手持工事が少傾向。受注競争激化により利幅が低下傾向。(村山南)
- 公共工事はほとんどない。大きい工事については、大手ゼネコンが受注し、なかなか地元の業者は下請けに入るのも難しい状況である。(村山北)
- 公共工事が少ないので、県外の仕事がほとんどである。(最上)
- 地元の仕事は例年よりも減少傾向にあるのではないかとと思われる。(置賜)
- 工事件数は増えているが、単価は上がらない。(庄内田川)
- 地元受注が乏しく、競争激化もあって厳しい状況が続くと思われる。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策について

- 地方の公共工事の削減に加え、オリンピック工事が本格化すると、ますます地方は業況が冷え込んでしまう。(村山南)
- 自社で土地を開発し、土地待ち客に対応して建築棟数を伸ばしていきたい。(村山北)
- 発注がないため仕事がなく、作業員を休ませる検討をしている。(最上)
- 県外に仕事を求めていかないと来期以降も苦しい状況になりそうだ。(置賜)
- 今期は大型工事があり順調だったが、来期は見通しが暗くなる見込み。(庄内田川)
- 県外での受注を増やし、計画受注高を確保するようにならなければならない。また、新規事業の展開も考慮している。(庄内飽海)

② 製造業

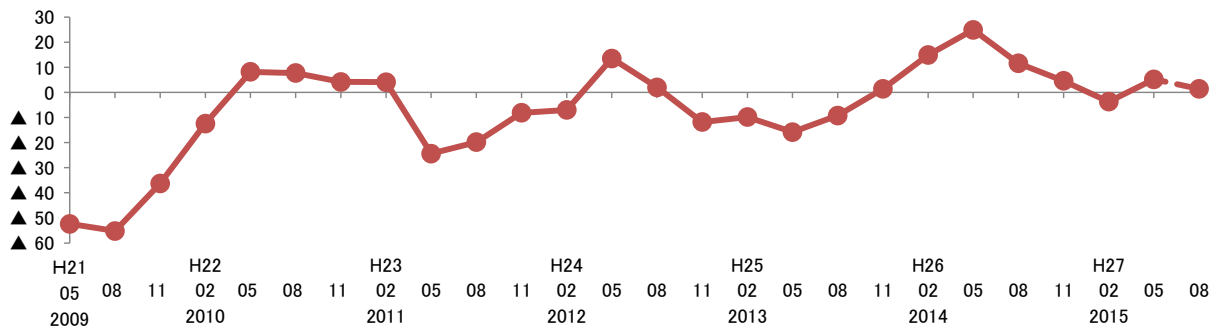
現況判断：4 期ぶりに改善

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 5.2（前回調査比 8.9 ポイント上昇）と前回調査でマイナスとなった D I 値が再びプラスに転じ、4 期ぶりに改善した。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「仕入価格」「在庫状況」「人員・人手」「資金繰り」の 4 項目で悪化しているものの、「売上高」「営業利益」が大幅に改善した。要因として、親会社が好調なことから受注環境が好転していることや、食品関連製造業の業況好転などが考えられる。一方で、「仕入価格」が大幅なマイナスで推移しており、円安による原材料価格の高騰が大きく影響している状況がうかがわれる。

来期の見通し：若干悪化が見込まれる

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が 1.4（今回調査比 3.8 ポイント下落）と若干悪化の見込みとなっている。

図表 5 製造業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移

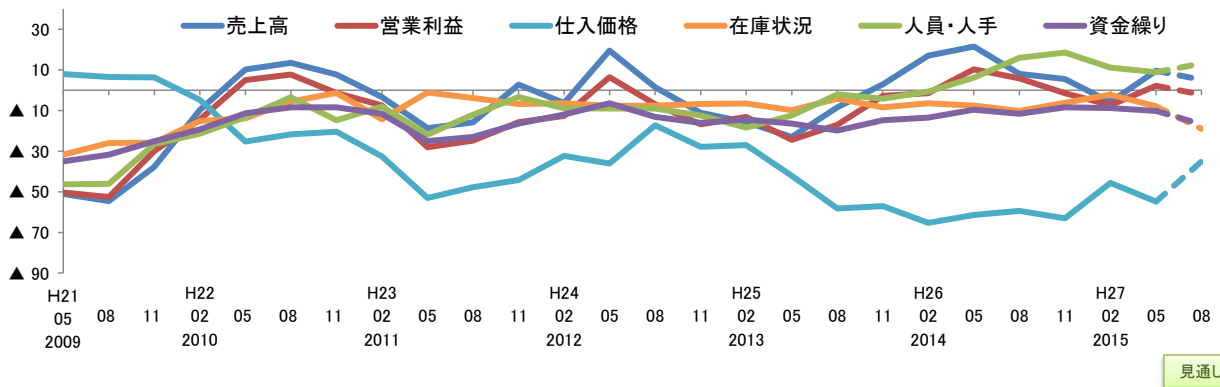


見通し

前年同期比の自社業況 D I 値

製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H 26.05 (n=145)	24.9	(10.0)	4.9	21.4	10.3	▲ 61.4	▲ 7.6	6.2	▲ 9.6
H 26.08 (n=138)	11.6	(▲ 13.3)	▲ 6.9	8.0	5.8	▲ 59.4	▲ 10.2	15.9	▲ 11.6
H 26.11 (n=130)	4.6	(▲ 7.0)	7.9	5.4	▲ 1.5	▲ 63.1	▲ 6.2	18.5	▲ 8.5
H 27.02 (n=136)	▲ 3.7	(▲ 8.3)	▲ 6.1	▲ 5.9	▲ 7.4	▲ 45.6	▲ 2.2	11.1	▲ 8.8
H 27.05 (n=137)	5.2	(8.9)	▲ 3.7	9.5	2.2	▲ 54.8	▲ 8.0	8.8	▲ 10.2
前回調査比	-	-	-	(15.4)	(9.6)	(▲ 9.2)	(▲ 5.8)	(▲ 2.3)	(▲ 1.4)
先行き見通し	1.4	-	-	5.1	▲ 2.2	▲ 35.0	▲ 19.0	13.1	▲ 16.8
今回調査比	(▲ 3.8)	-	-	(▲ 4.4)	(▲ 4.4)	(19.8)	(▲ 11.0)	(4.3)	(▲ 6.6)

図表 6 製造業「各種DI値（前年同期比）」の推移



Q. 今期の業況について

業界の声

- 売り上げに関して、菓子業界においては昨年対比をクリアしており、好況感を感じられるが、円安による輸入原材料価格の高騰により、収益が圧迫される。(村山南)
- 昨年は消費税増税前の駆け込み需要があり、売り上げの増加があったが、その分今年は落ち込む。(村山北)
- 円安による原料価格の高騰、エネルギーの増加分を価格に転嫁できない。値上げを申請してもなかなか認めてもらえない。認められたとしても、認められるまでの時間差が利益を確実に圧縮している。(最上)
- 円安による仕入れ価格の高騰の影響はあるが、売り上げ自体が増加傾向にあるため、営業利益を何とか確保できている状況。(置賜)
- 利益ゼロベース並みの受注量は確保できる予定だが、設備の補修・メンテナンス等の発生が見込まれるため、依然として厳しい状況。(庄内田川)
- 親会社の業績が上向きにあり、売り上げ・利益とも増加の見込みである。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策について

- 一部製品の値上げを検討している。(村山南)
- 円安要因により収益が悪化しており、来期も為替動向次第。(村山北)
- 既存海外拠点での生産がコスト高になってきており、さらに低コストの生産拠点を計画中。(最上)
- ここ数年は何かしのげると思うが、先行きを考えると海外市場を見越した技術開発が必要。(置賜)
- 業務の見直しと、人員確保の仕組みづくりをしていく。売り上げ重視より、利益重視とする。(庄内田川)
- 短納期化に対応して人員を多少増やしたいと思っている。(庄内飽海)



### ③ 卸・小売業

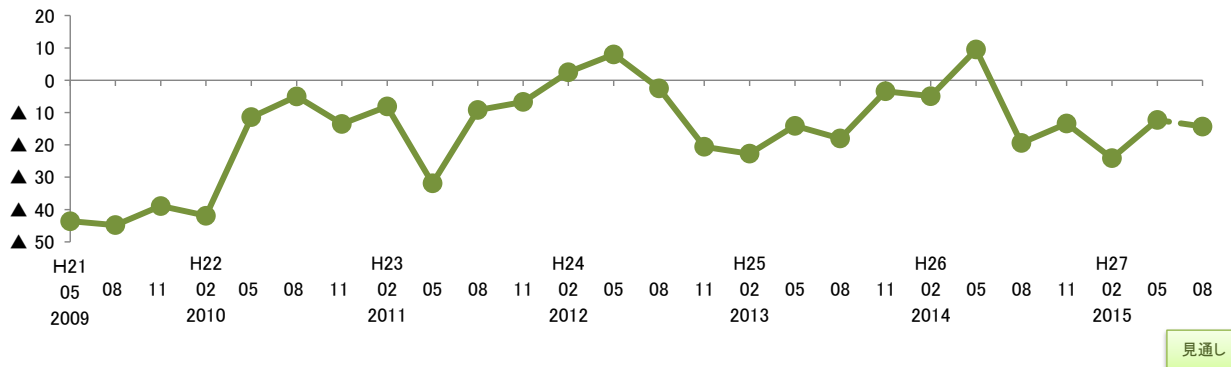
#### 現況判断：低水準ながら大幅に改善

「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲12.3（前回調査比 11.8 ポイント上昇）と大幅に改善した。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「仕入価格」が悪化しているものの、その他の5項目で改善しており、中でも「営業利益」の改善幅が大きくなっている。要因として、一部の食品関連の卸・小売業で業況が好転したことなどが考えられる。

#### 来期の見通し：若干悪化が見込まれる

業況の先行き見通しは、▲14.3（今回調査比 2.0 ポイント下落）と若干悪化の見込みとなっている。

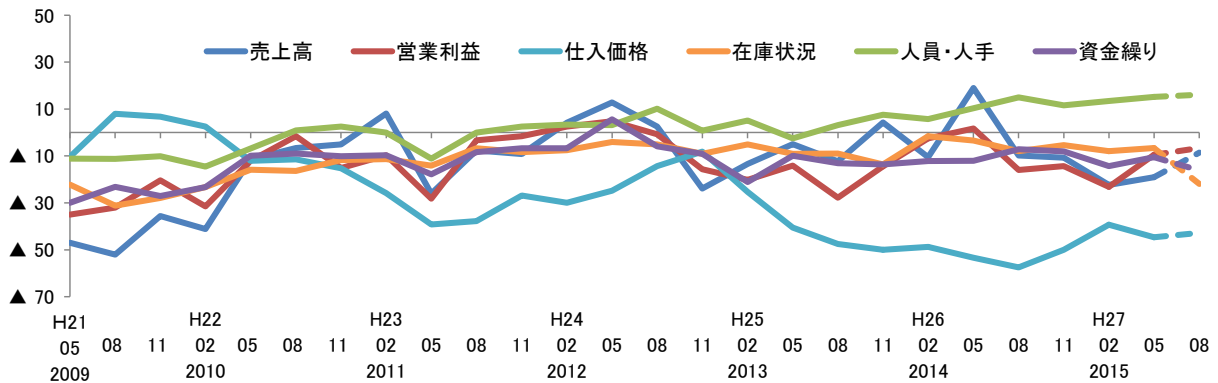
図表 7 卸・小売業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

卸・小売業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測	前年同月比						
H 26.05 (n=116)	9.5	(14.4)	▲ 4.9	19.0	1.7	▲ 53.4	▲ 3.4	10.3	▲ 12.1
H 26.08 (n=113)	▲ 19.4	(▲ 28.9)	▲ 21.5	▲ 9.8	▲ 16.0	▲ 57.5	▲ 7.9	15.0	▲ 7.1
H 26.11 (n=112)	▲ 13.4	(6.0)	▲ 17.7	▲ 10.7	▲ 14.3	▲ 50.0	▲ 5.4	11.6	▲ 8.1
H 27.02 (n=112)	▲ 24.1	(▲ 10.7)	▲ 16.1	▲ 22.3	▲ 23.2	▲ 39.3	▲ 8.0	13.4	▲ 14.3
<b>H 27.05 (n=105)</b>	<b>▲ 12.3</b>	<b>(11.8)</b>	<b>▲ 24.1</b>	<b>▲ 19.1</b>	<b>▲ 9.5</b>	<b>▲ 44.7</b>	<b>▲ 6.6</b>	<b>15.2</b>	<b>▲ 10.5</b>
前回調査比	-	-	-	(3.2)	(13.7)	(▲ 5.4)	(1.4)	(1.8)	(3.8)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 14.3</b>	-	-	<b>▲ 8.6</b>	<b>▲ 6.6</b>	<b>▲ 42.8</b>	<b>▲ 21.9</b>	<b>16.1</b>	<b>▲ 16.2</b>
今回調査比	(▲ 2.0)	-	-	(10.5)	(2.9)	(1.9)	(▲ 15.3)	(0.9)	(▲ 5.7)

図表 8 卸・小売業「各種DI値（前年同期比）」の推移



見通し

### Q. 今期の業況について

### 業界の声

- お客様の高齢化によって新しい技術や商品等への取り組みの難しさと、景気回復の遅れによる業界の生活優先順位の低さで、ほとんど活性化をすることが不可能に近い状態。(村山南)
- 前期以降、収益改善がみられ、ホッとしている。今後も商品の高付加価値化が不可欠と考える(村山北)
- 消費税増税の影響による不景気感が依然として感じられる。(最上)
- 原油の国際価格が大変不安定で、今後もどのような動きをするかわからない。(置賜)
- 円安や物価上昇はつらい。(庄内田川)
- ハイブリッド車、低燃費車の普及により、ガソリン販売が振るわない。(庄内飽海)

### Q. 来期の見通しや対策について

- 来期以降については、再度の増税が見えていることや供給も限定的なことなどを考えると、あまり期待できず、地道にできることを一つ一つ積み上げていくしかない。(村山南)
- いろいろなイベントを開催して、お客様が来てくれるように工夫をしている。(最上)
- 価格ではなかなか対応できないので、顧客にあった商品のおすすめや、付加価値サービスの提供を拡充し、お客様の満足度、固定化、再来店につなげようと努力している。(置賜)
- 小売店の減少傾向、同業者の廃業は続くと思う。(庄内田川)
- 商品の魅力ある陳列方法や、訴求する技術をコンスタントに勉強中である。(庄内飽海)
- コストダウンと商品の絞り込みで業績を上げていく。(庄内飽海)

④ サービス業

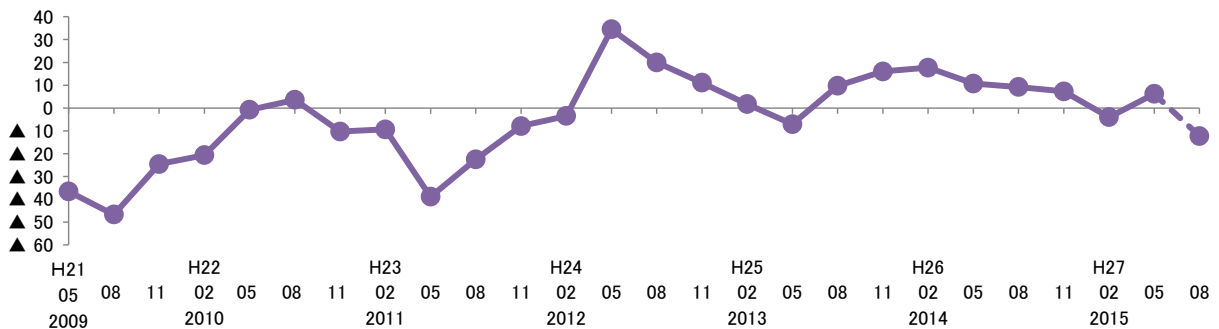
現況判断：5 期ぶりに改善

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 6.2（前回調査比 10.2 ポイント上昇）と、前回調査でマイナスであった D I 値が再びプラスに転じ、5 期ぶりに改善となった。要因として、システム関連企業の業況好転などが考えられる。

来期の見通し：悪化が見込まれる

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲12.3（今回調査比 18.5 ポイント下落）と悪化し、D I 値が再びマイナスに転じる見込みとなっている。

図表 9 サービス業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移

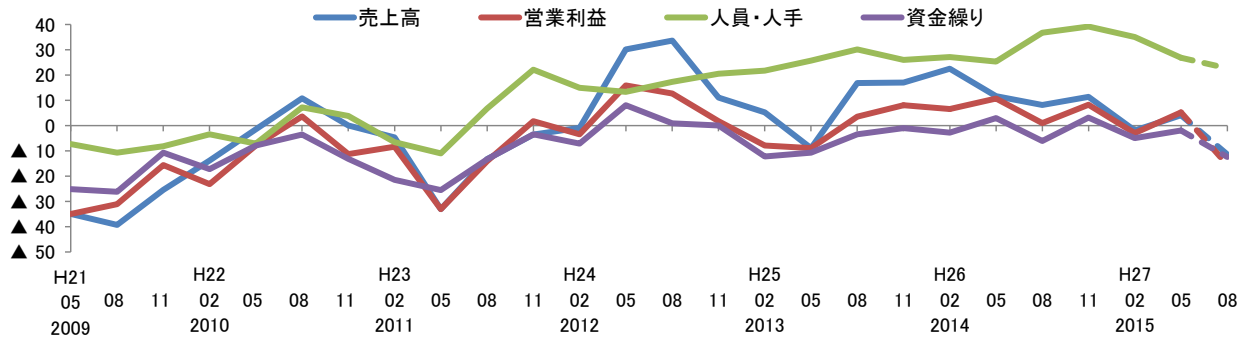


見通し

前年同期比の自社業況 D I 値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
H 26.05 (n=103)	10.7	(▲ 7.0)	▲ 3.7	11.6	10.7	25.3	2.9
H 26.08 (n=98)	9.2	(▲ 1.5)	▲ 12.6	8.1	1.0	36.7	▲ 6.1
H 26.11 (n=97)	7.3	(▲ 1.9)	1.0	11.3	8.2	39.2	3.1
H 27.02 (n=100)	▲ 4.0	(▲ 11.3)	▲ 13.4	▲ 2.0	▲ 3.0	35.0	▲ 5.0
H 27.05 (n=97)	6.2	(10.2)	▲ 10.0	4.1	5.2	26.8	▲ 2.0
前回調査比	-	-	-	(6.1)	(8.2)	(▲ 8.2)	(3.0)
先行き見通し	▲ 12.3	-	-	▲ 11.4	▲ 15.5	22.7	▲ 12.4
今回調査比	(▲ 18.5)	-	-	(▲ 15.5)	(▲ 20.7)	(▲ 4.1)	(▲ 10.4)

図表 10 サービス業「各種DI値（前年同期比）」の推移



見通し

業界の声

Q. 今期の業況について

- 多少単価の高いお客様も増えているが、全体的に財布の紐は固いままである。(村山南)
- 先が見えないのに賃金アップ、人手不足と、大変苦しい営業である。(村山北)
- 昨年のDCを、本年はアフターDCで確保できるか。全般的な物価上昇、客単価の下降が懸念される。(庄内田川)
- 依然として人手不足。求人しても、なかなかいい人材が来ない。(庄内田川)
- 昨年より荷動きが低迷しており、4月以降顕著である。(庄内飽海)
- 夜の飲食店へのお客様の流れがよくない。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策について

- 設備投資（コンピュータシステム）の需要を取りに行くための営業力の強化、提案力の向上が課題である。(村山南)
- 付帯事業での不採算部門の損失圧縮、外部移管による抜本的改革を予定している。(村山北)
- 市場の変化に対応した戦略や行動力が、売り上げ、利益につながっていくと思う(最上)
- 来期については仕事量は減少傾向と見ている。仕事量の減少に伴い、価格競争が再燃し、厳しさが予想される。(置賜)
- 広範囲の業務内容を生かし、さまざまなユーザー様への積極提案で成約案件を増やす。(庄内田川)
- 中期的には人材の確保・育成に力を入れる。短期的には定年後再雇用者の処遇を検討。(庄内飽海)

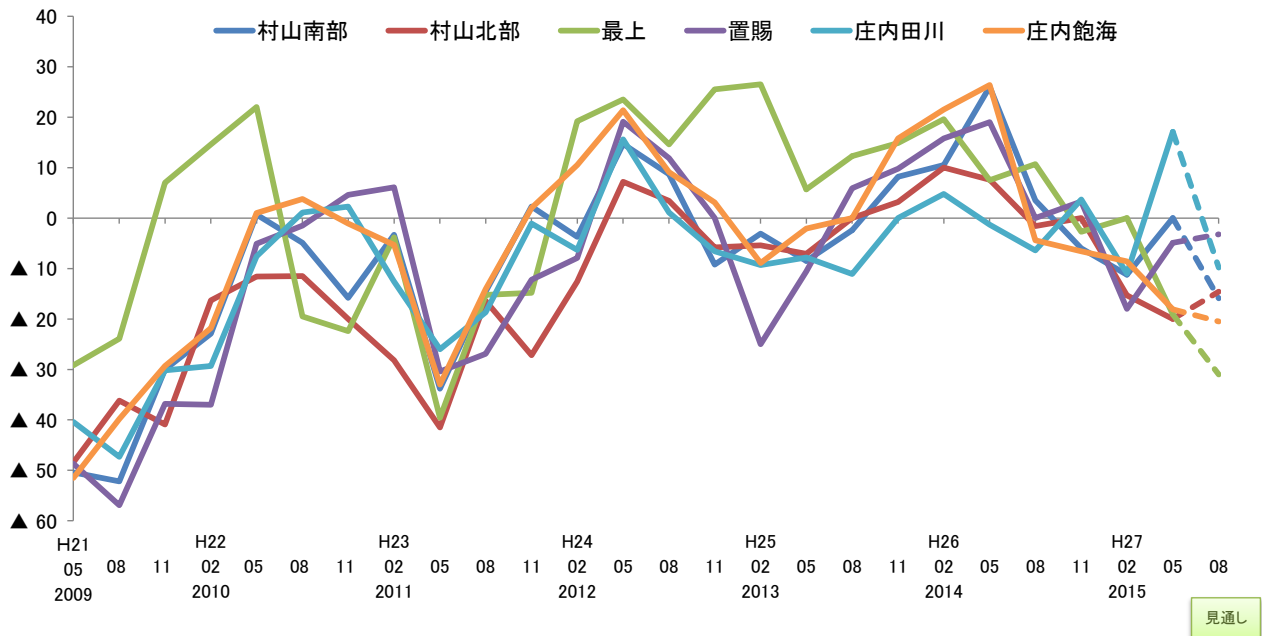
### 3. 地域別の動向

#### (1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、村山南部が0.0（前回調査比11.2ポイント上昇）、村山北部が▲20.0（前回調査比4.7ポイント下落）、最上が▲19.1（前回調査比19.1ポイント下落）、置賜が▲4.9（前回調査比13.1ポイント上昇）、庄内田川が17.1（前回調査比28.1ポイント上昇）、庄内飽海が▲18.1（前回調査比9.5ポイント下落）と、村山南部、置賜、庄内田川で改善する一方、村山北部、最上、庄内飽海で悪化した。

業況の先行き見通しをみると、村山南部、最上、庄内田川、庄内飽海の4地域で悪化の見込みとなっている。

図表 11 地域別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
H 26. 05 (n=461)	16.3	26.0	7.6	7.5	19.0	▲ 1.3	26.4
H 26. 08 (n=454)	▲ 0.2	3.5	▲ 1.6	10.7	0.0	▲ 6.4	▲ 4.4
H 26. 11 (n=442)	▲ 2.0	▲ 6.0	0.0	▲ 2.7	3.3	3.7	▲ 6.6
H 27. 02 (n=448)	▲ 11.1	▲ 11.2	▲ 15.3	0.0	▲ 18.0	▲ 11.0	▲ 8.6
<b>H 27. 05 (n=442)</b>	<b>▲ 5.5</b>	<b>0.0</b>	<b>▲ 20.0</b>	<b>▲ 19.1</b>	<b>▲ 4.9</b>	<b>17.1</b>	<b>▲ 18.1</b>
前回調査比	(5.6)	(11.2)	(▲ 4.7)	(▲ 19.1)	(13.1)	(28.1)	(▲ 9.5)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 15.1</b>	<b>▲ 15.9</b>	<b>▲ 14.6</b>	<b>▲ 31.0</b>	<b>▲ 3.2</b>	<b>▲ 9.8</b>	<b>▲ 20.5</b>
今回調査比	(▲ 9.6)	(▲ 15.9)	(5.4)	(▲ 11.9)	(1.7)	(▲ 26.9)	(▲ 2.4)

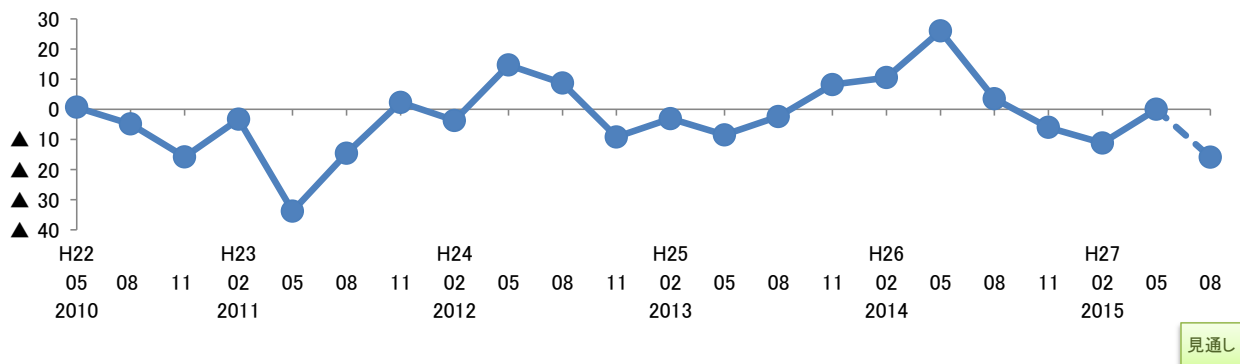
(2) 地域別 D I 値の動向

① 村山南部

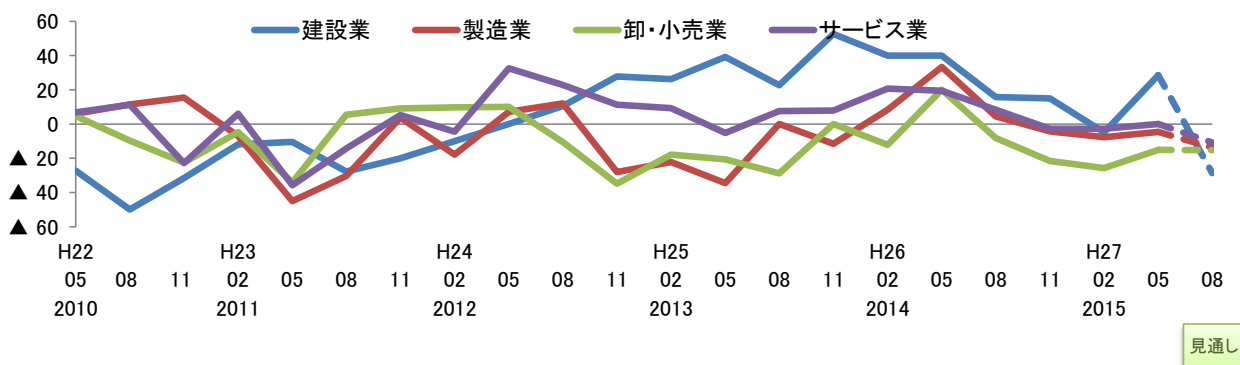
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 0.0（前回調査比 11.2 ポイント上昇）と 4 期ぶりに改善となった。業種別にみると、すべての業種で改善となり、中でも建設業と卸・小売業で大幅な改善となり、建設業では前回調査でマイナスであった D I 値が再びプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲15.9（今回調査比 15.9 ポイント下落）と再び悪化の見込みで、中でも建設業は大幅な悪化が見込まれており、今回調査では改善したものの、公共工事が減少傾向にあることなどから、業況回復が一時的である状況がうかがわれる。

図表 12 村山南部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 13 村山南部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

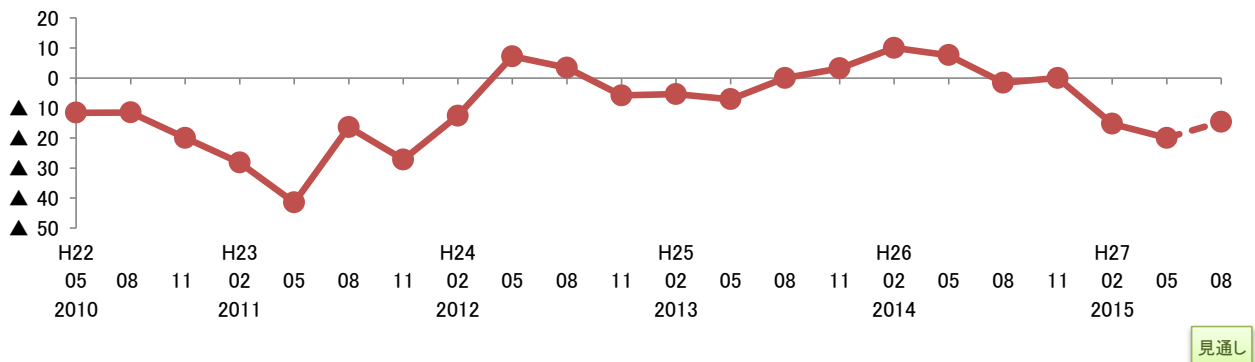
村山南部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26. 05 (n=123)	26.0	(15.5)	5.7	40.0	33.3	20.0	19.5
H 26. 08 (n=114)	3.5	(▲ 22.5)	▲ 16.3	15.7	4.5	▲ 8.1	8.4
H 26. 11 (n=117)	▲ 6.0	(▲ 9.5)	0.0	15.0	▲ 4.3	▲ 21.6	▲ 2.7
H 27. 02 (n=116)	▲ 11.2	(▲ 5.2)	▲ 6.8	▲ 5.0	▲ 7.7	▲ 25.7	▲ 2.8
H 27. 05 (n=113)	0.0	(11.2)	▲ 13.7	28.6	▲ 4.6	▲ 15.1	0.0
前回調査比	-	-	-	(33.6)	(3.1)	(10.6)	(2.8)
先行き見通し	▲ 15.9	-	-	▲ 28.6	▲ 13.7	▲ 15.2	▲ 10.8
今回調査比	(▲ 15.9)	-	-	(▲ 57.2)	(▲ 9.1)	(▲ 0.1)	(▲ 10.8)

## ② 村山北部

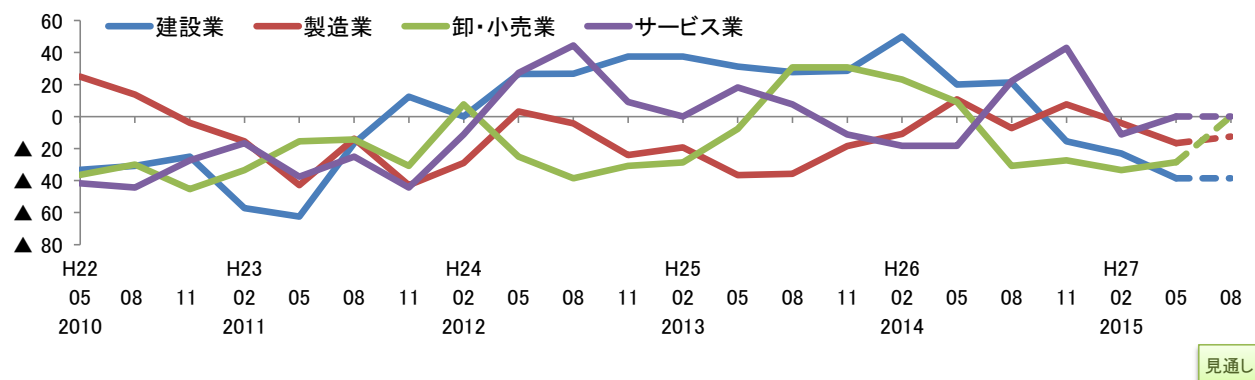
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲20.0（前回調査比4.7ポイント下落）と若干悪化した。業種別にみると、建設業と製造業で大幅な悪化となっている。悪化要因として、建設業では公共工事や民間工事の減少傾向などが考えられ、製造業では円安による原材料費の高騰などの影響が考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲14.6（今回調査比5.4ポイント上昇）と若干回復の見込みとなっている。

図表 14 村山北部「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 15 村山北部「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

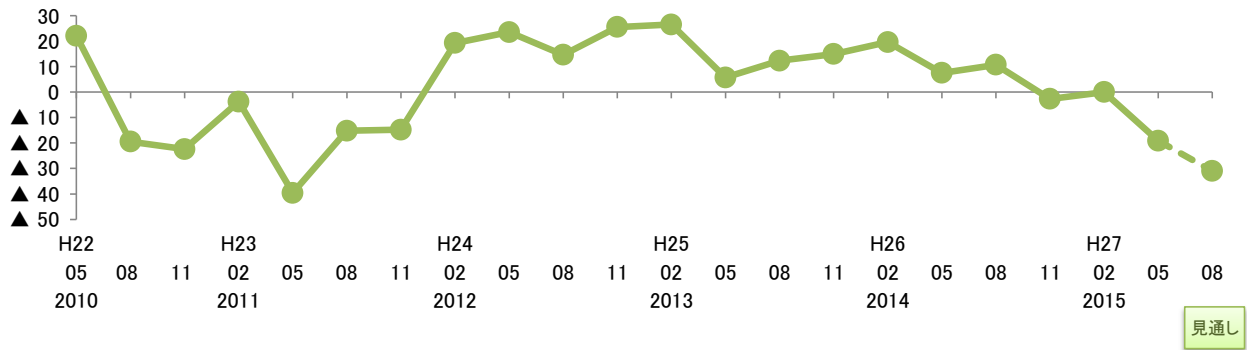
村山北部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26.05 (n=65)	7.6	(▲ 2.4)	▲ 5.7	20.0	10.8	9.1	▲ 18.2
H 26.08 (n=64)	▲ 1.6	(▲ 9.2)	▲ 4.6	21.4	▲ 7.2	▲ 30.8	22.2
H 26.11 (n=57)	0.0	(1.6)	9.3	▲ 15.4	7.7	▲ 27.3	42.9
H 27.02 (n=59)	▲ 15.3	(▲ 15.3)	▲ 15.8	▲ 23.1	▲ 4.0	▲ 33.4	▲ 11.1
<b>H 27.05 (n=55)</b>	<b>▲ 20.0</b>	<b>(▲ 4.7)</b>	<b>▲ 23.7</b>	<b>▲ 38.5</b>	<b>▲ 16.6</b>	<b>▲ 28.5</b>	<b>0.0</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 15.4)	(▲ 12.6)	(4.9)	(11.1)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 14.6</b>	-	-	<b>▲ 38.5</b>	<b>▲ 12.5</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>
今回調査比	(5.4)	-	-	(0.0)	(4.1)	(28.5)	(0.0)

③ 最上

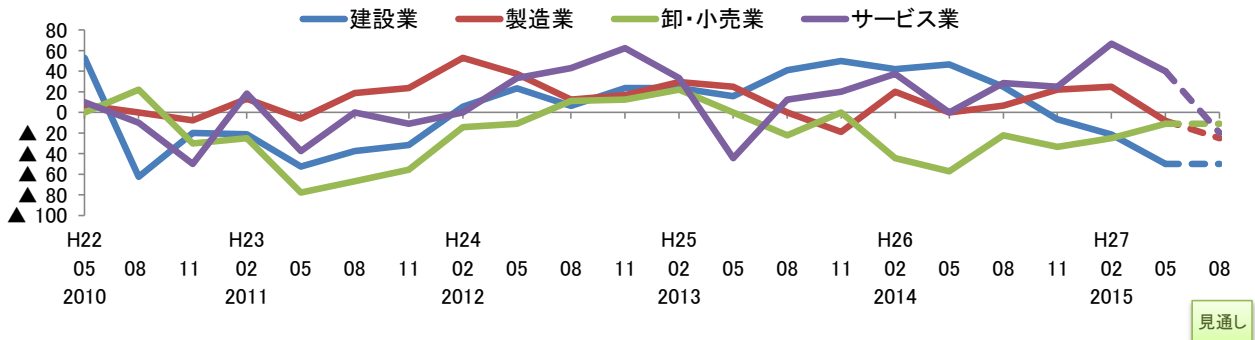
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲19.1（前回調査比 19.1 ポイント下落）と大幅に悪化した。業種別にみると、卸・小売業が改善したものの、建設業、製造業、サービス業で大幅に悪化している。中でも建設業の D I 値は▲50.0（前回調査比 28.5 ポイント下落）とマイナス幅が拡大している。建設業の悪化要因として、一部に県外など他地域で受注する動きが見られるなど、最上地域の公共工事の減少傾向が考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲31.0（今回調査比 11.9 ポイント下落）とさらに大幅な悪化の見込みとなっている。

図表 16 最上「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 17 最上「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

最上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26.05 (n=40)	7.5	(▲ 12.1)	▲ 3.9	46.6	0.0	▲ 57.1	0.0
H 26.08 (n=47)	10.7	(3.2)	▲ 2.5	25.0	6.6	▲ 22.2	28.5
H 26.11 (n=37)	▲ 2.7	(▲ 13.4)	4.2	▲ 6.7	22.2	▲ 33.4	25.0
H 27.02 (n=37)	0.0	(2.7)	▲ 16.2	▲ 21.5	25.0	▲ 25.0	66.7
<b>H 27.05 (n=42)</b>	<b>▲ 19.1</b>	<b>(▲ 19.1)</b>	<b>▲ 24.3</b>	<b>▲ 50.0</b>	<b>▲ 8.3</b>	<b>▲ 11.1</b>	<b>40.0</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 28.5)	(▲ 33.3)	(13.9)	(▲ 26.7)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 31.0</b>	-	-	<b>▲ 50.0</b>	<b>▲ 25.0</b>	<b>▲ 11.1</b>	<b>▲ 20.0</b>
今回調査比	(▲ 11.9)	-	-	(0.0)	(▲ 16.7)	(0.0)	(▲ 60.0)

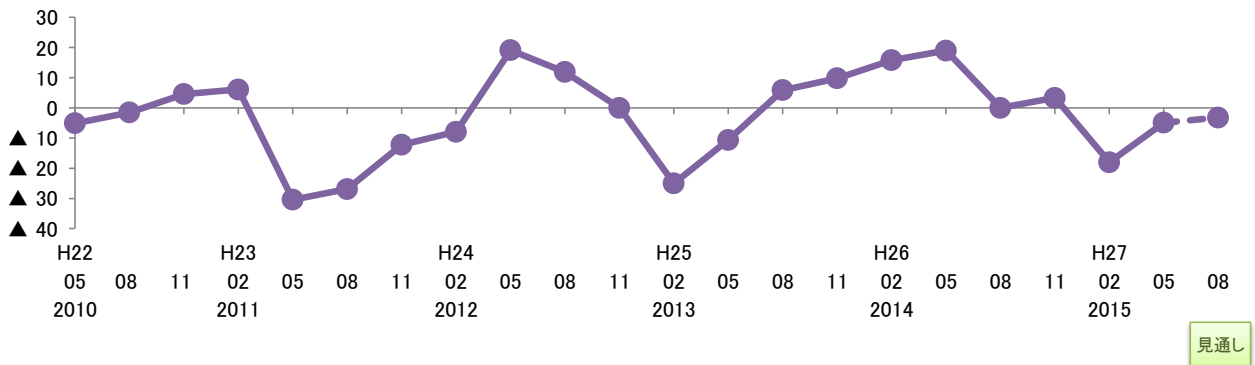


④ 置 賜

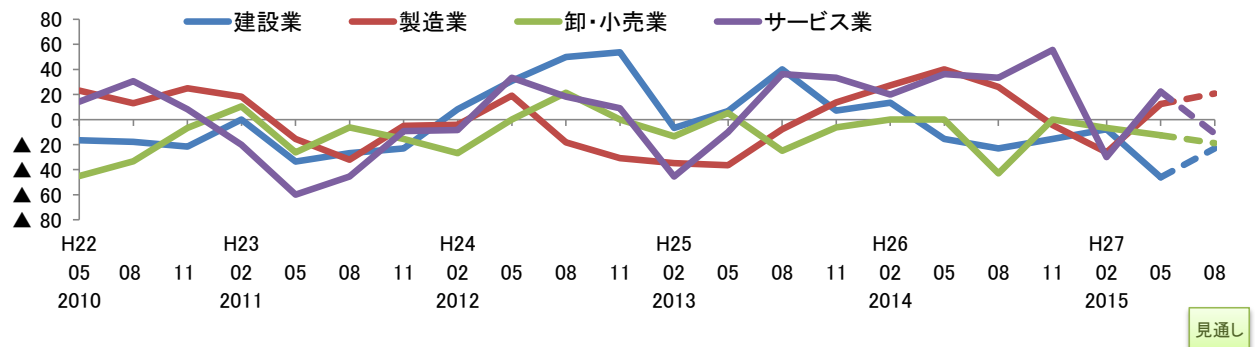
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲4.9（前回調査比 13.1 ポイント上昇）と大幅に改善し、D I 値のマイナス幅が縮小した。業種別にみると、製造業とサービス業で大幅に改善する一方、建設業と卸・小売業で悪化となり、特に建設業の悪化幅が大きい。製造業の回復要因として、輸出関連製品の増産などが考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲3.2（今回調査比 1.7 ポイント上昇）と若干回復の見込みとなっている。

図表 18 置賜「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 19 置賜「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

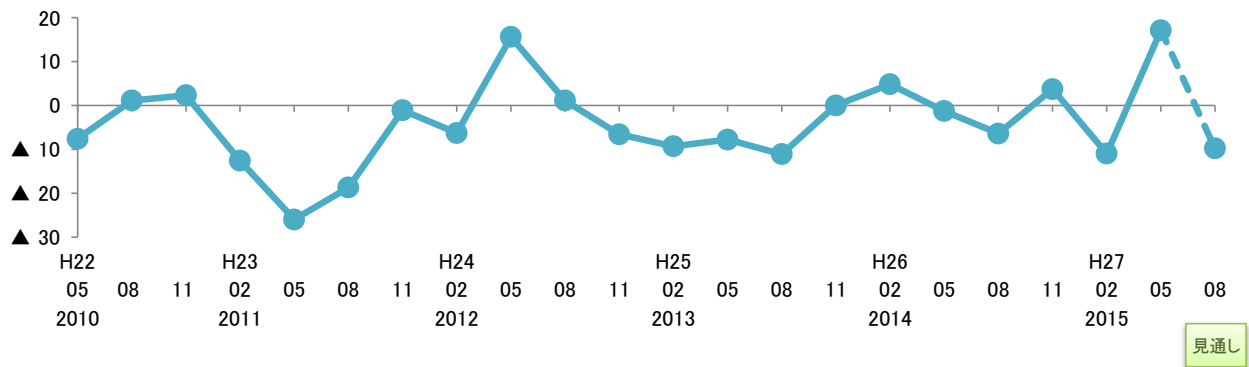
置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26.05 (n=63)	19.0	(3.2)	▲ 9.6	▲ 15.4	40.0	0.0	36.3
H 26.08 (n=59)	0.0	(▲ 19.0)	▲ 8.0	▲ 23.1	26.1	▲ 42.9	33.3
H 26.11 (n=61)	3.3	(3.3)	▲ 5.1	▲ 15.4	▲ 4.3	0.0	55.6
H 27.02 (n=61)	▲ 18.0	(▲ 21.3)	▲ 14.7	▲ 7.7	▲ 26.1	▲ 6.6	▲ 30.0
H 27.05 (n=62)	▲ 4.9	(13.1)	▲ 4.9	▲ 46.1	12.5	▲ 12.5	22.2
前回調査比	-	-	-	(▲ 38.4)	(38.6)	(▲ 5.9)	(52.2)
先行き見通し	▲ 3.2	-	-	▲ 23.1	20.8	▲ 18.8	▲ 11.1
今回調査比	(1.7)	-	-	(23.0)	(8.3)	(▲ 6.3)	(▲ 33.3)

### ⑤ 庄内田川

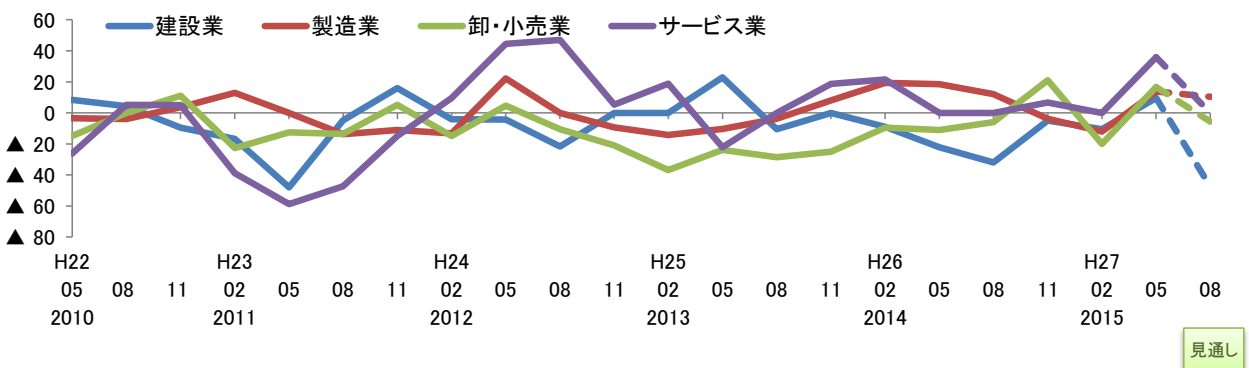
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲17.1（前回調査比 28.1 ポイン上昇）と大幅に改善し、前回調査でマイナスであった D I 値が再びプラスに転じた。業種別にみると、すべての業種で改善となっている。中でも卸・小売業とサービス業の改善幅が大きい。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲9.8（今回調査比 26.9 ポイント下落）と再び大幅に悪化の見込みとなっている。中でも建設業の悪化幅が大きく、公共工事の減少傾向から先行きを懸念している状況がうかがわれる。

図表 20 庄内田川「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 21 庄内田川「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

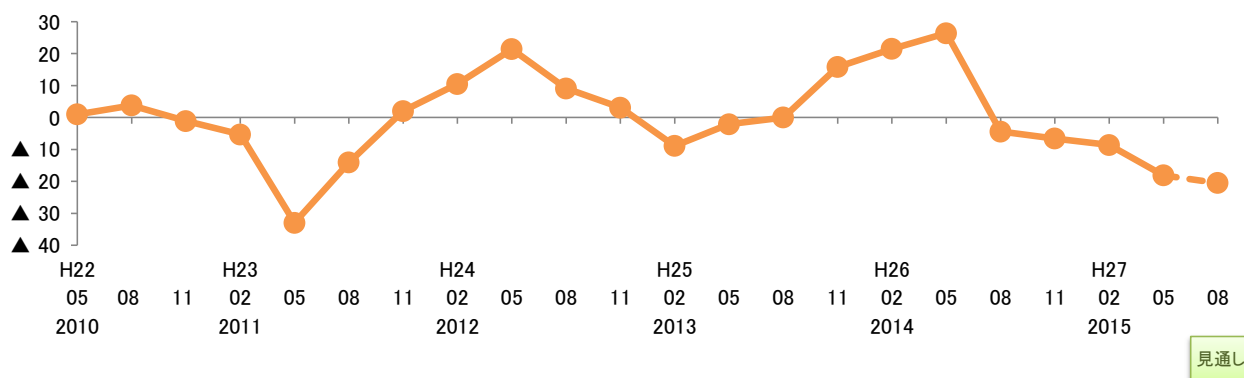
庄内田川 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26.05 (n=79)	▲ 1.3	(▲ 6.1)	▲ 12.1	▲ 22.2	18.5	▲ 11.1	0.0
H 26.08 (n=78)	▲ 6.4	(▲ 5.1)	▲ 16.4	▲ 31.9	12.0	▲ 5.9	0.0
H 26.11 (n=80)	3.7	(10.1)	1.3	▲ 5.0	▲ 3.8	21.0	6.7
H 27.02 (n=82)	▲ 11.0	(▲ 14.7)	▲ 15.0	▲ 10.5	▲ 12.0	▲ 20.0	0.0
<b>H 27.05 (n=82)</b>	<b>17.1</b>	<b>(28.1)</b>	<b>▲ 18.3</b>	<b>9.5</b>	<b>13.8</b>	<b>16.7</b>	<b>35.8</b>
前回調査比	-	-	-	(20.0)	(25.8)	(36.7)	(35.8)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 9.8</b>	-	-	<b>▲ 47.6</b>	<b>10.4</b>	<b>▲ 5.6</b>	<b>0.0</b>
今回調査比	(▲ 26.9)	-	-	(▲ 57.1)	(▲ 3.4)	(▲ 22.3)	(▲ 35.8)

## ⑥ 庄内飽海

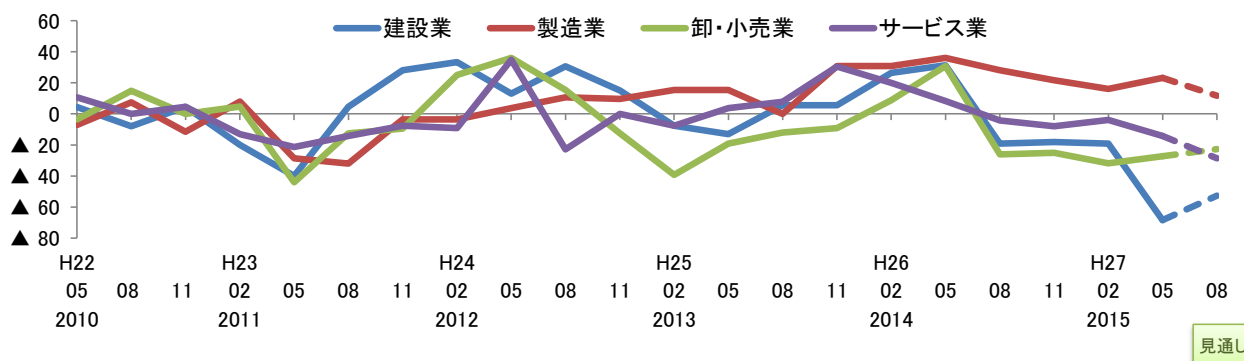
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲18.1（前回調査比9.5ポイント下落）と4期連続で悪化となった。業種別にみると、建設業とサービス業で悪化となり、とりわけ建設業の悪化幅が大きい。要因として、公共工事の減少傾向などが考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲20.5（今回調査比2.4ポイント下落）と若干悪化の見込みとなっている。

図表 22 庄内飽海「自社の業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 23 庄内飽海「業種別・自社の業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26.05 (n=91)	26.4	(4.9)	▲ 2.1	31.3	36.0	30.8	8.3
H 26.08 (n=92)	▲ 4.4	(▲ 30.8)	▲ 23.1	▲ 19.1	28.0	▲ 26.1	▲ 4.3
H 26.11 (n=90)	▲ 6.6	(▲ 2.2)	▲ 15.2	▲ 18.2	21.7	▲ 25.0	▲ 8.0
H 27.02 (n=93)	▲ 8.6	(▲ 2.0)	▲ 22.2	▲ 19.1	16.0	▲ 31.8	▲ 4.0
<b>H 27.05 (n=88)</b>	<b>▲ 18.1</b>	<b>(▲ 9.5)</b>	<b>▲ 12.9</b>	<b>▲ 68.4</b>	<b>23.1</b>	<b>▲ 27.3</b>	<b>▲ 14.3</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 49.3)	(7.1)	(4.5)	(▲ 10.3)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 20.5</b>	-	-	<b>▲ 52.6</b>	<b>11.6</b>	<b>▲ 22.7</b>	<b>▲ 28.6</b>
今回調査比	(▲ 2.4)	-	-	(15.8)	(▲ 11.5)	(4.6)	(▲ 14.3)

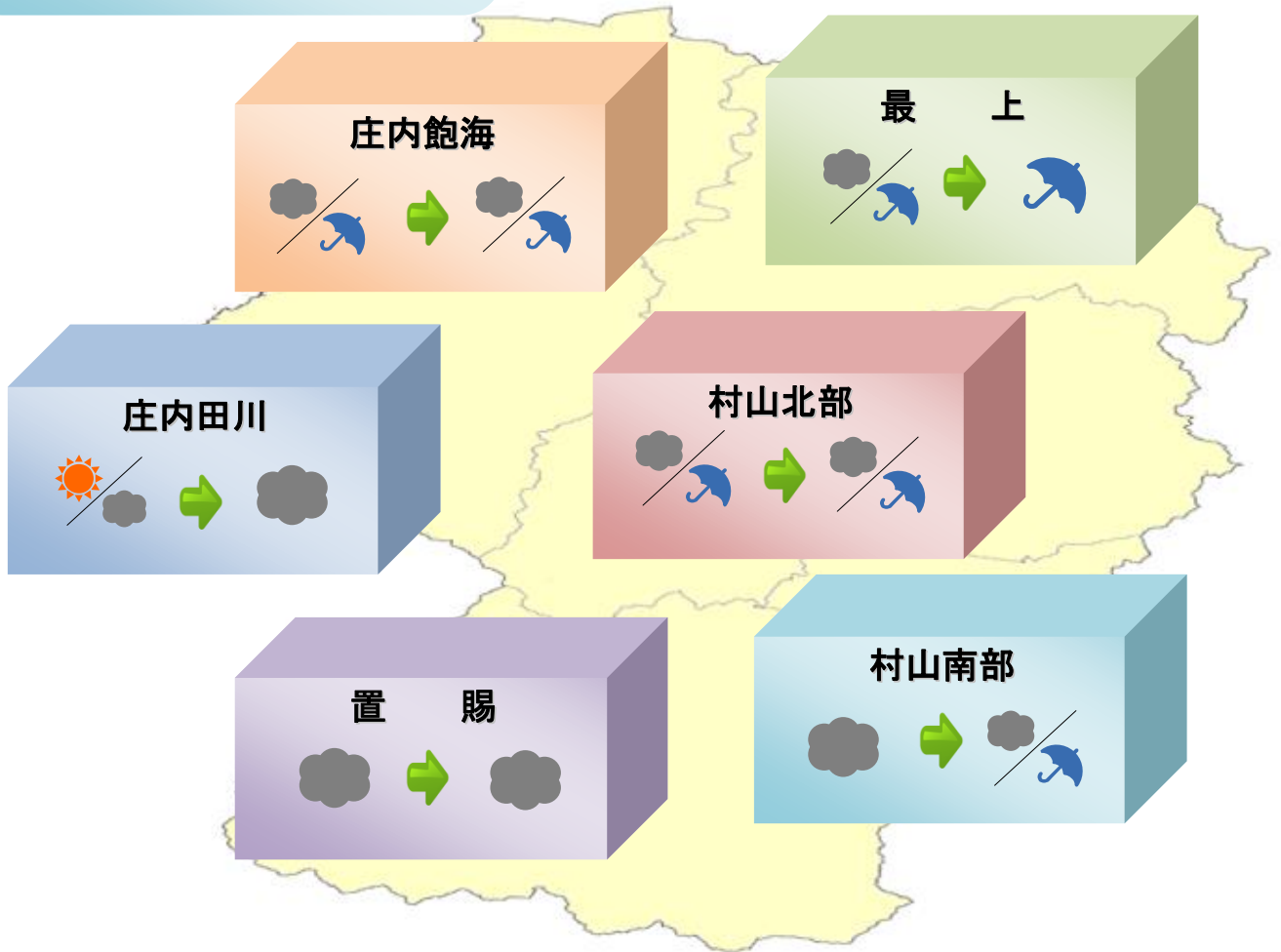
II. 景気天気予報図

山形県

今期の業況 → 来期の見通し

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$



今期の概況

来期の見通し

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

### III. 特別調査

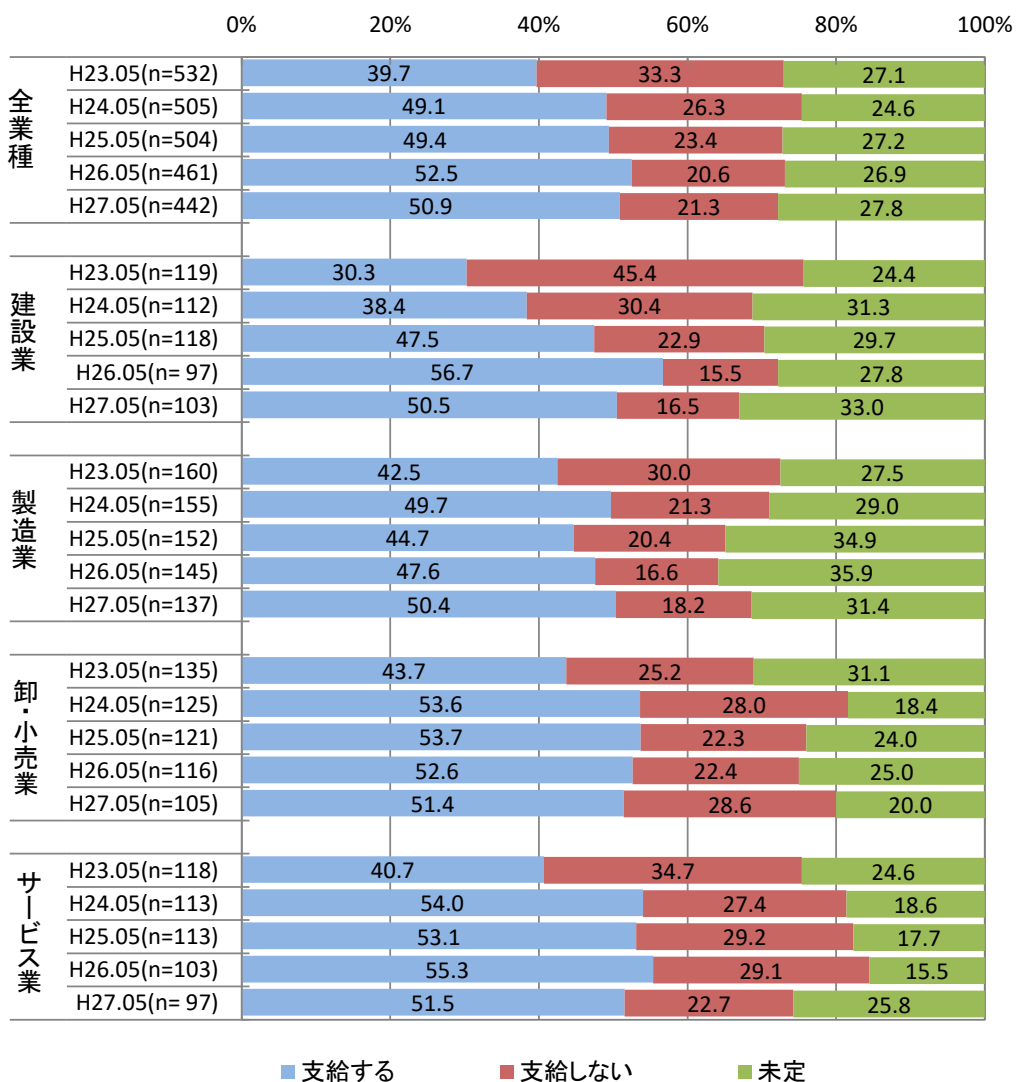
#### 1. 夏季ボーナスについて

##### (1) 支給予定動向

夏季ボーナスの支給予定について尋ねたところ、全業種で見ると「支給する」と回答した企業の割合は 50.9%（前年比 1.6 ポイント低下）と、前年に比べて若干低下した。

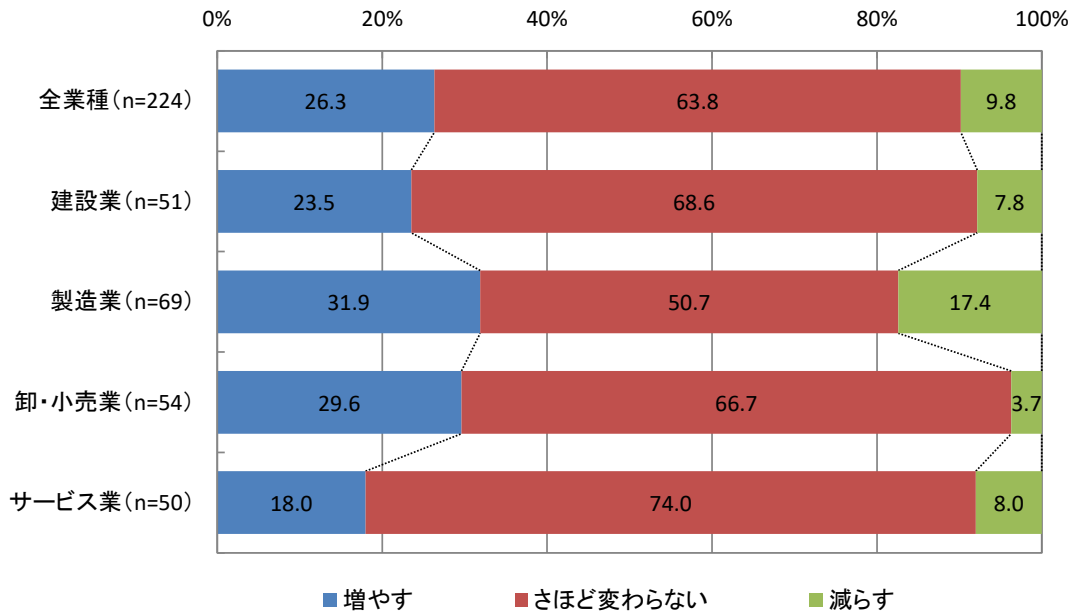
業種別にみると、「支給する」と回答した企業の割合は、建設業が 50.5%（6.2 ポイント低下）、製造業が 50.4%（2.8 ポイント上昇）、卸・小売業が 51.4%（1.2 ポイント低下）、サービス業が 51.5%（3.8 ポイント低下）と、製造業で上昇したものの、建設業、卸・小売業、サービス業で低下している。中でも建設業は、5カ年の推移をみると、前年までは支給企業の割合が上昇基調であったが、今回調査では一転して低下となった。要因として公共工事の減少傾向などが考えられる。

図表 24 業種別 夏季ボーナス支給動向の推移



また、今季「支給する」と回答した企業に対し、昨年夏季と比べて支給額を増やすかどうか尋ねたところ、全業種でみると「さほど変わらない」と回答した企業が 63.8%と最も多く、「増やす」と回答した企業は 26.3%であった。業種別にみると、製造業では、「増やす」と回答した企業（31.9%）と「減らす」と回答した企業（17.4%）の割合がいずれも他業種に比べて高く、企業によって業況にばらつきがあるものと考えられる。

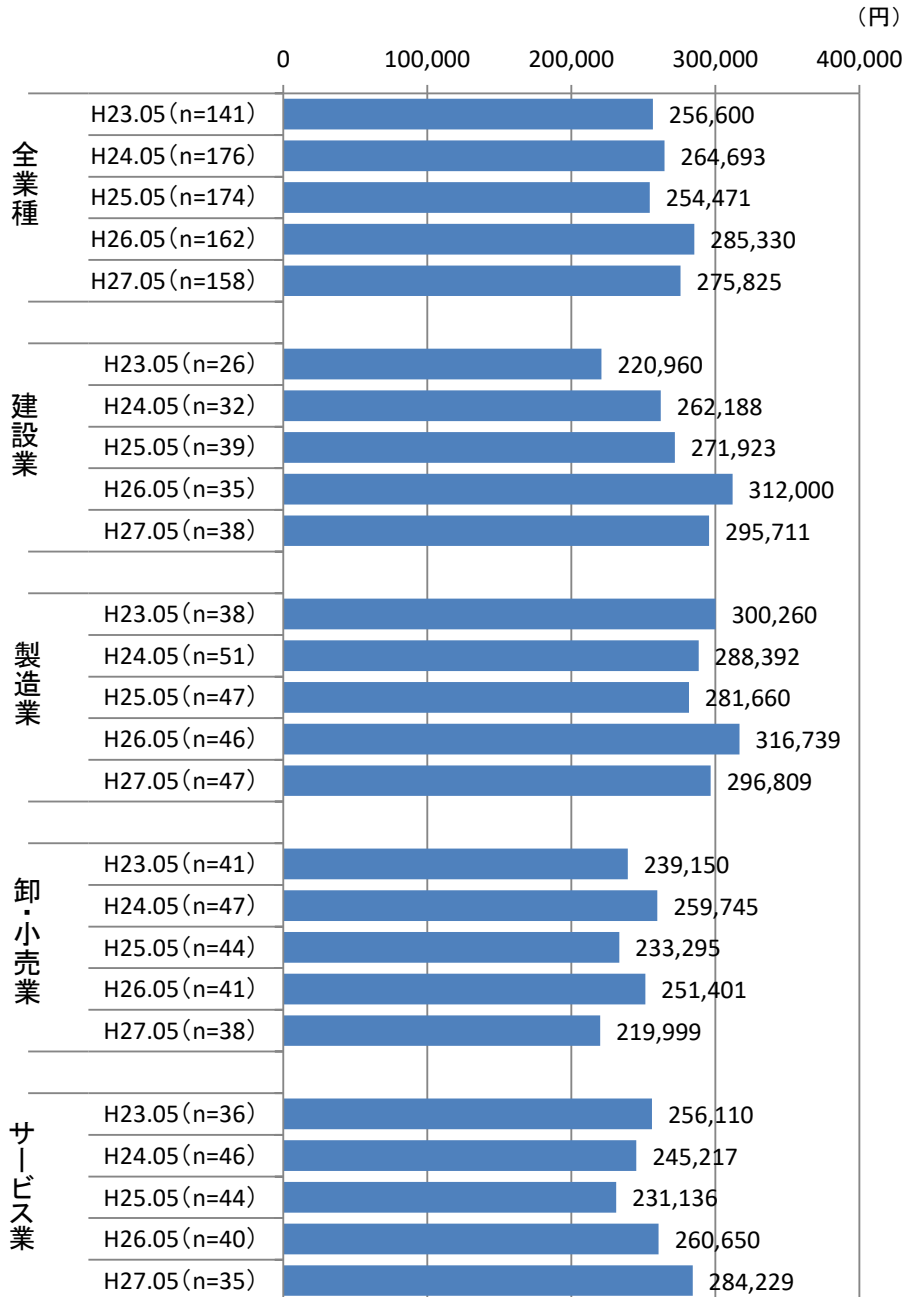
図表 25 業種別 夏季ボーナスを“支給する”企業の方針



## (2) 支給予定額

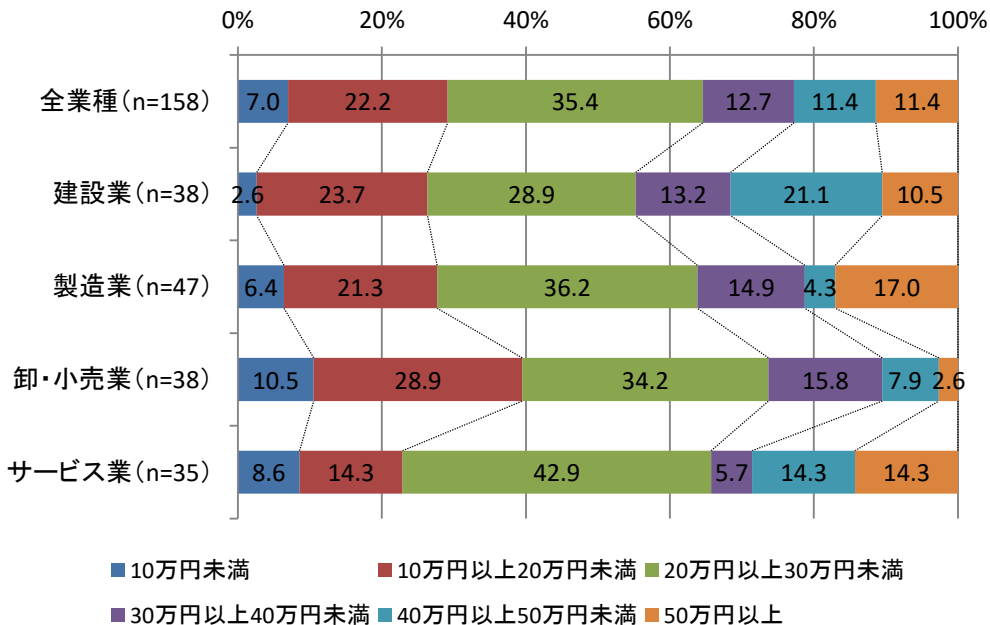
夏季ボーナスの支給予定額については、全業種平均で 275,825 円となり、昨年に比べ約 1.0 万円 (▲3.3%) の減少となる見込みである。業種別にみると、昨年に比べてサービス業では増加するものの、他の 3 業種では減少する見込みとなっている。平均支給予定額が最も高いのは製造業で 296,809 円となり、次いで建設業、サービス業、卸・小売業の順となっている。

図表 26 業種別 夏季ボーナスの平均支給予定額の推移



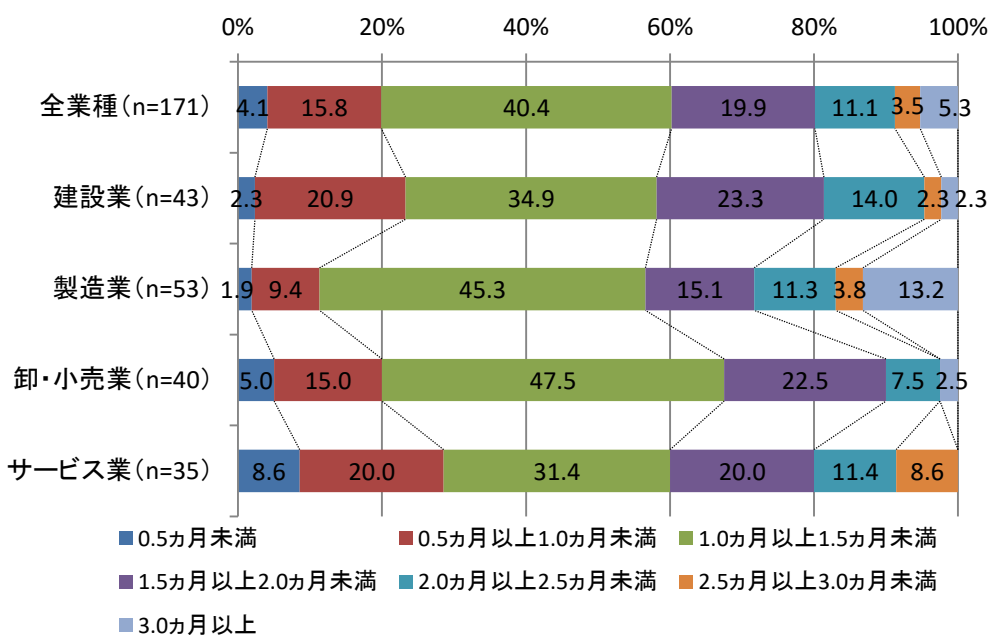
平均支給予定額は、全業種で「20 万円以上 30 万円未満」と回答した企業の割合が最も高く、35.4%となっている。業種別にみると、製造業で「50 万円以上」と回答した企業の割合が 17.0%と、他業種に比べて最も高くなっている。

図表 27 業種別 夏季ボーナス平均支給予定額



平均支給予定月数は、全業種で「1.0 カ月以上 1.5 カ月未満」と回答した企業の割合が 40.4%と最も高くなっている。業種別にみると、製造業では「3.0 カ月以上」と回答した企業の割合が 13.2%と他業種に比べて最も高くなっている。

図表 28 業種別 夏季ボーナス平均支給予定月数



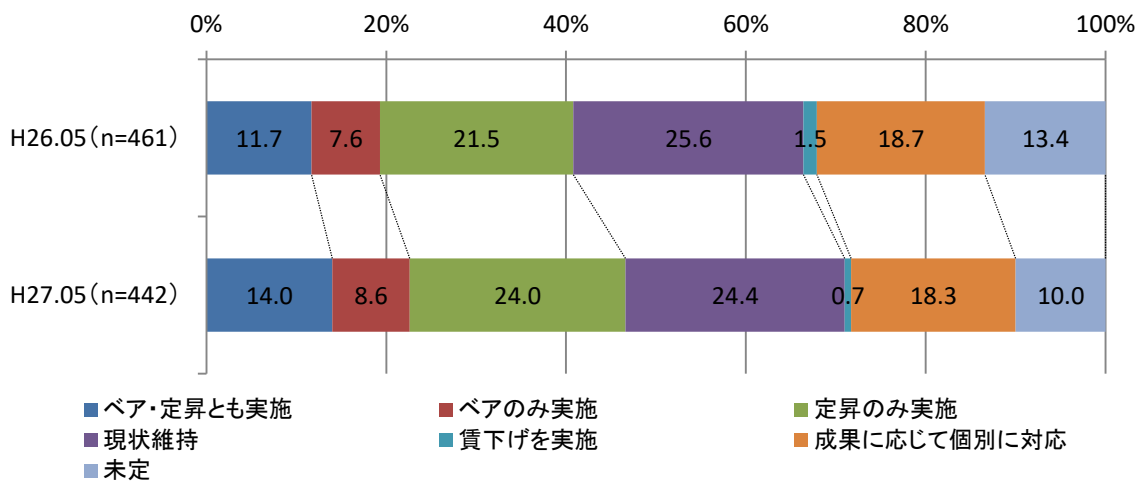


## 2. 春季以降の賃金改定動向について

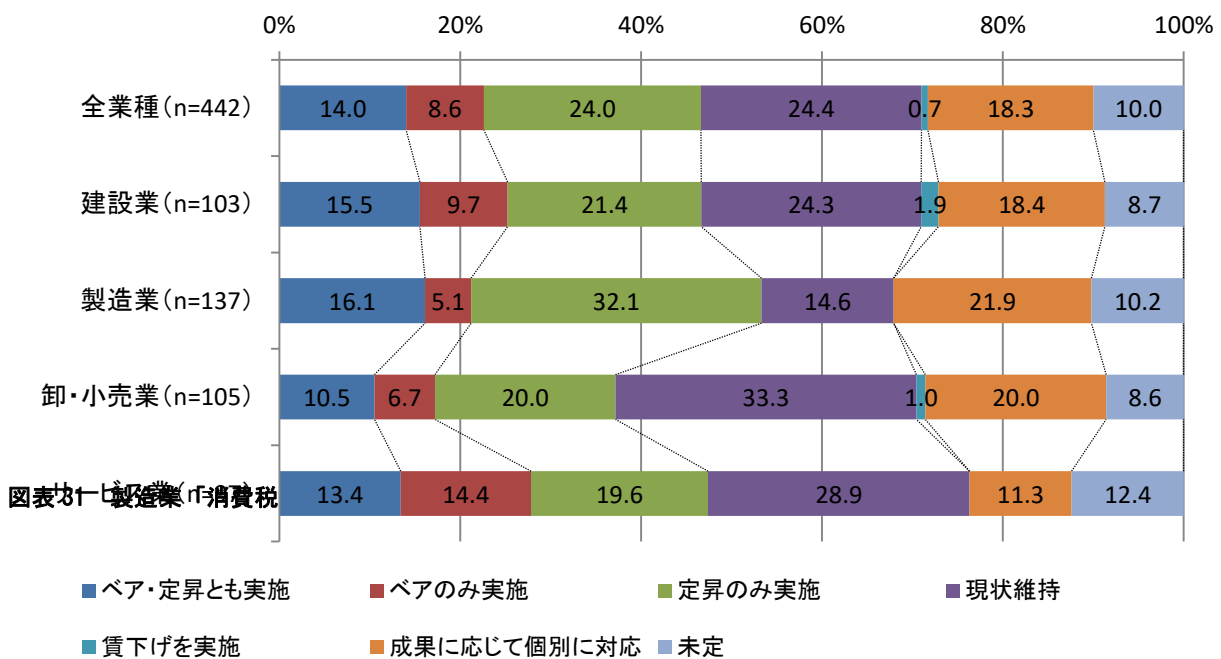
平成 27 年 4 月以降の賃金改定動向（ベースアップや定期昇給を実施する（した）か）を尋ねたところ、賃上げを実施する企業の割合（「ベア・定昇とも実施」+「ベアのみ実施」+「定昇のみ実施」）は、全業種で 46.6% となり、前年（40.8%）に比べて 5.8 ポイント上昇した。一方、賃下げの実施などその他の割合（「賃下げを実施」+「成果に応じて個別に対応」+「未定」）が 29.0% となった。

業種別にみると、賃上げを実施する企業の割合は製造業で 53.3% と最も高くなっており、他業種に比べ、製造業の業況の良さがうかがわれる。

図表 29 全業種 賃金改定動向の推移



図表 30 業種別 賃金改定動向



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	26	36	55	57	174
村山北部	22	38	17	19	96
最上	21	19	12	18	70
置賜	23	33	27	16	99
庄内田川	31	39	29	32	131
庄内飽海	36	37	34	40	147
合計	159	202	174	182	717

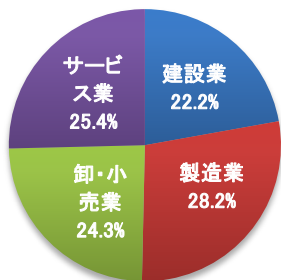
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	21	22	33	37	113
村山北部	13	24	7	11	55
最上	16	12	9	5	42
置賜	13	24	16	9	62
庄内田川	21	29	18	14	82
庄内飽海	19	26	22	21	88
合計	103	137	105	97	442

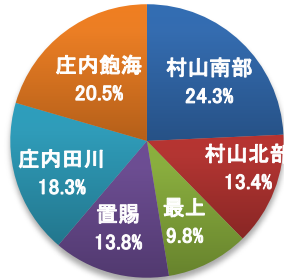
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	80.8	61.1	60.0	64.9	64.9
村山北部	59.1	63.2	41.2	57.9	57.3
最上	76.2	63.2	75.0	27.8	60.0
置賜	56.5	72.7	59.3	56.3	62.6
庄内田川	67.7	74.4	62.1	43.8	62.6
庄内飽海	52.8	70.3	64.7	52.5	59.9
合計	64.8	67.8	60.3	53.3	61.6

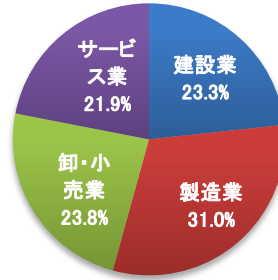
サンプル割合（業種別）



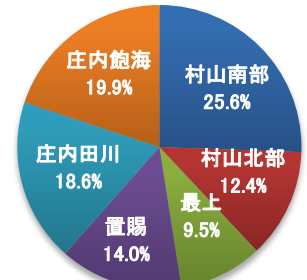
サンプル割合（地域別）



回答社割合（業種別）



回答社割合（地域別）



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部 F A X を利用）

● 調査期間

平成 27 年 5 月 7 日（木）～15 日（金）

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について3肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製 (商) 品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ3肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれDI値を算出する。DI値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況DI値

$$= (\text{「1. 良い」と回答した企業の割合}) - (\text{「3. 悪い」と回答した企業の割合})$$

たとえば「自社の業況DI値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向 (良くなっているか、悪くなっているか) についても分かる

ちなみに、他のDI値についても同様に、選択肢「1. 」(「選択肢」欄をご参照のこと) を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちら是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (<http://www.f-ric.co.jp/>) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア総合研究所

研究開発グループ 熊本 均 / 松田 美由紀

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@f-ric.co.jp URL : <http://www.f-ric.co.jp/>